

## H30年度 I 期 グループ企画4

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	U. Y	University of Malaya (マラヤ大学)	マレーシア	H30/8/15-H30/8/16
2	N. Y			
3	Y. T			
4	R. F			

# 平成 30 年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科 3年

氏名 U. Y

以下では、表紙に記載した「3. 今回の海外活動により得られた成果・感想等」について報告します。

## 1. スケジュール

詳細な活動内容については第3項「活動内容」で記述します。

2018年8月13日 関西国際空港発、マレーシア クアラルンプール国際空港着

8月14日 自由時間（翌日のクイズ大会の対策のための勉強、および大会の雰囲気に慣れるためのクアラルンプール散策）

8月15日 国際生理学クイズ大会1日目

8月16日 国際生理学クイズ大会2日目


引き続きマレーシアに滞在し、続けて交換留学のプログラムに参加しました。

## 2. 目的

国際生理学クイズ大会への準備・参加を通して生理学の能力を高めること。また、この大会に参加している世界各国の医学生と交流すること。

## 3. 活動内容


私は2018年5月19日、20日に鳥取大学で開かれた、第3回医学生生理学クイズ大会日本大会に参加し、私と余田、Watsapol、余田、ルイからなるチームで7位という成績を獲得いたしました。ここで西嶋を加え、2018年8月15日、16日にマレーシアのマラヤ大学で開かれた国際生理学クイズ大会に参加して参りました。


**Prof. A. Raman Challenge Trophy**

# 16<sup>th</sup> Inter-Medical School Physiology Quiz

**REGISTRATION FEES:**  
 USD 70 per participant


**CLOSING DATE:**  
 31st March 2018




15<sup>th</sup> & 16<sup>th</sup> August 2018  
 University of Malaya,  
 Kuala Lumpur, Malaysia

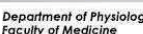


A university team consists of a minimum of 3 to a maximum of 5 student participants  
 Teams should comprise new student competitors of the IMSPQ  
 Registration fees includes food and for students, 3 nights accommodation

**Refresher Course by:**

  
**Prof. David Eisner**  
 Professor of Cardiac Physiology,  
 University of Manchester  
 President of  
 The Physiological Society (UK)

  
**Prof. Susan Wray**  
 Professor of Cellular and  
 Molecular Physiology,  
 University of Liverpool,  
 Editor-in-chief of Physiological Reports

For Further Inquiries, please contact :  
**PROF. DR. CHENG HWEE MING**  
 Tel: +603-7967 4907 / WhatsApp: +6017-372 8412  
 Email: 16thquiz@gmail.com

Jointly organised by:
 



大会のパンフレットです。



会場のマラヤ大学で撮影しました。

左より、大会の主催者である Cheng 教授、そして私、余田、Watsapol、ルイ、西嶋です。

## 4. 成果

大会の結果としては、予選敗退ということになってしまいました。日本から参加した大阪大学、大阪医科大学、島根大学の3大学とも予選敗退という結果になり、世界の壁は厚いと感じました。

ただ大会ではクイズがあっただけではなく、Cultural Night という医学生どうしが交流できるイベントがあり、ここでは世界各地の医学生がパフォーマンスを行っていて、世界の文化の多様性を感じることができました。



ルーマニアの University of Medicine and Pharmacy of Targu Mures という大学の医学生による、フォークダンスです。

## 5. 抱負

まず私はこの大会への準備・参加を通して生理学の能力を高めることができました。引き続き生理学および医学全般の勉強に励み、すぐれた医者または医学研究者になることをあらためて決意いたしました。

また私は先輩に触発されて生理学クイズの日本大会、世界大会に参加いたしました。ここで次に私は後輩の生理学クイズ大会の参加を後押しし、そしてその準備も手伝っていかうと思いました。

## 平成30年度岸本国際奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科3年

氏名 N. Y

### 1. スケジュール

2018年8月13日 関西国際空港発、クアラルンプール国際空港着

8月15日 16<sup>th</sup> Inter-Medical School Physiology Quiz (IMSPQ)予選、Culture Night

8月17日 クアラルンプール国際空港発、関西国際空港着

### 2. 目的

国際的なクイズ大会のなかでも歴史があり、かつ規模が大きいIMSPQに参加することで、生理学をはじめとする医学的知識を身に着けるとともに、様々な文化的背景をもった学生たちと交流を図る。

### 3. 活動内容

#### ・IMSPQ 予選

まず、大会のシステムを軽く説明する。大会初日の予選には100チームが参加し、上位48チームが決勝トーナメントに進出できる。試験問題は全て正誤問題であり、計100問を75分で解答する。正解1点、不正解-1点、無回答0点という採点方式をとっているため、より確実な知識が要求される。また、問題文は全て英語で書かれているため、基本的な医学英語は頭に入れておく必要がある。

実際に聞いてみた印象は、問題は生理学を中心とする基礎医学からまんべんなく出題され、単純な知識問題はほとんど見られなかったように思えた。また、問題は単一の器官系だけで完結していることはあまりなく、例えば神経系と消化器系、さらには筋骨格系の知識を組み合わせなければ解けないような問題も多く、想像以上に苦戦する結果となった。

#### ・Culture Night

午前中に予選が終了し、夕方からはCulture Nightが行われた。ここでは各国の医学生が有志で伝統芸能を披露していた。中国のカンフー、モンゴルの舞踊、ルーマニアの社交ダンスなど、どれもが印象的で目新しかった。また、タイの医学生が突然日本のアイドルグループの音楽を激しく踊りはじめたのには思わず笑ってしまった。

一連の催し物の後、予選の結果が発表された。大阪大学は残念ながら決勝トーナメントに進出することができなかった。

### 4. 成果と今後の抱負

今回の予選敗退という結果を踏まえて痛感したのは、自分はまだ基礎医学の体系的な

理解には至っていないということ、そして世界には自分たちよりも優秀な学生が大勢いるということである。今までは大学の試験で高得点を取ることで十分理解した気になっていたが、その考えを改めさせられた。今後は大学の試験を丁寧にこなしつつ、清書を読むなどして知識の上塗りを重ねていきたい。

また勉強の他に学んだのは、日本の常識が海外でも適用されるとは限らない、ということである。渡航初日にクアラルンプール国際空港からホテルへと向かう際、タクシーの運転手からぼったくりの被害にあった。個人タクシーではなくれっきとしたタクシー会社であるにも関わらずである。このような日常のことはもちろん、海外で臨床や研究するにあたっては日本の常識を当たり前だとみなさずに、十分な理解をもって対処するべきであると実感した。

最後になりますが今回このような貴重な体験をさせていただいたのは、奨学金をくださった岸本忠三先生、生理学についてアドバイスしてくださった岡村康司先生、推薦状を書いてくださった和佐勝史先生をはじめ、多くの方々の御陰です。この場を借りて感謝申し上げます。

# 平成30年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科 3回生

氏名 Y. T

## スケジュール

**8月13日**

関西国際空港発、クアラルンプール国際空港着

**8月14日**

Malaya University 付近散策

翌日に向けた試験勉強

**8月15日**

第16回国際生理学クイズ大会(16<sup>th</sup> Inter Medical School Physiology Quiz)参加  
(Malaya University)

**8月16日**

Malaysia 観光

**8月17日**

クアラルンプール国際空港発、関西国際空港着

## 1. 目的

- ・ 国際生理学クイズ大会を通して、生理学(および生化学・形態学・病理学・薬理学)を勉強する
- ・ 国際生理学クイズ大会を通して、世界の医学生と積極的な交流をする
- ・ 国際生理学クイズ大会およびマレーシア滞在を通して、自身の英語の能力を高める

## 2. 内容

- ・ 第 16 回国際生理学クイズ大会(16<sup>th</sup> Inter Medical School Physiology Quiz)

今回我々が参加させていただいた大会は、第 16 回国際生理学クイズ大会(16<sup>th</sup> Inter Medical School Physiology Quiz : 以下 16th IMSPQ)である。もともと、生理学の授業の際に、統合生理学教室の岡村康司教授や 5 年次学生の辻井さん(昨年度 15th IMSPQ 参加者)からの紹介があり、興味深く感じ友人とともに参加した。2018 年 5 月 19 日 20 日に鳥取大学にて行われた医学生生理学クイズ日本大会 2018 に出場した



ものの、その日本大会では様々な分野から広くまた複合的に出題され、ときに臨床的な問題も含まれていたことから、7 位という結果に終わった。ここで見つけた課題を克服するために、生理学をはじめとして生化学・形態学・病理学・薬理学の勉強をしていった。また、16th IMSPQ はその名の通り国際大会であるため英語で行われる。各分野の専門用語を英語でも覚え、その語彙および生理学の内容の定着のために、ガイトン生理学の英語版やその問題集にも取り組んだ。16th IMSPQ は、Written Test, First Round, Quarter-finals, Semi-finals, Finals から成っており、マークシートや筆記試験の形式で試験が行われる。世界各国から集まった 102 チームが予選である Written Test を受け、上位 48 チームがその後の本選の First Round 以降に進むことになる。16th IMSPQ 初日の 8 月 15 日は、Written Test が行われた。Written Test は、全 100 問の True or False の問題であり、1 問正解につき 1 点、不正解の場合はマイナス 1 点となり、チームの平均得点が計算される。その結果により本選進出チームが決定され、8 月 15 日夜の Quiz Cultural Concert のときに発表され、翌 8 月 16 日の本選に進む。Quiz Cultural Concert は、予選の結果発表だけではなく、様々なチームがダンスや歌などのパフォーマンスを行い、参加者同士の交流会の意味もあった。私たちのチームは、努力したものの力及ばず、本選に進むことはできなかった。



#### ・Malaysia 観光

私たちのチームは 16th IMSPQ の本選(大会 2 日目 8 月 16 日)に進むことが出来なかったことにより、この日は Malaysia の観光をすることとなった。

### 3. 成果および今後の抱負

今回の 16th IMSPQ に向けて様々な勉強を行ってきたが、残念ながら本選に進むことが出来なかった。しかし、その勉強を通じて生理学(および生化学・形態学・病理学・薬理学)の復習ができ、非常に良い機会となったと思う。3 回生後期や 4 回生以降において、これらの学習事項を基礎として更なる医学の勉強を進めていきたい。また、マレーシア滞在中には英語で会話することになったが、自分の英語がどれだけ通じるかが分かるとともに、逆に英語の能力の不足を感じた局面もあり、自身の英語力の限界を体験することができた。今後も引き続き英語をさらに勉強していこうと思う。

### 4. 謝辞

今回の 16th IMSPQ 参加にあたって、本プログラムに理解を示し採択してくださった岸本国際交流奨学基金、本基金に多大な貢献をしてくださっている岸本忠三先生、並びに医学科教育センターの和佐勝史先生、統合生理学教室・岡村康司先生、University of Malaya・Prof. Dr. Cheng Hwee Ming、その他お世話になったすべての先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 1 スケジュール

- 8/13 関西国際空港 発  
クアラルンプール国際空港 着
- 8/14 文化研修
- 8/15 IMSPQ一日目
- 8/16 予選敗退により文化研修
- 8/17 クアラルンプール国際空港 発  
関西国際空港 着

## 2 目的

生理学クイズ国際大会に参加することで、生理学の知見を深めるとともに、異文化と触れることで多様性への理解を深める。

## 3 活動内容・成果

### 8/14・16 文化研修

モスクとイスラム美術館を訪問しました。イスラム教では仏教やキリスト教と違い偶像崇拝が禁止されているため、建造物のデザインは幾何学的な印象を受けました。特に、アラビア文字を美術装飾として描いたアラビック書道にはとても印象をうけました。

マレーシアは人口の 67%がマレー系、25%が中華系、7%がインド系である多民族国家である。よって宗教も、61%がイスラム教、20%が仏教、1.0%が儒教・道教、6.0%がヒンドゥー教、9.0%がキリスト教で、多様である。そのため、モスク周辺に中華街があったりとヒンドゥー教の寺院があったりと多様性を感じました。また、印象としてある程度、人種ごとに集中はしているが、比較的交流があるように感じました。実際、宿泊したホテルのカウンターでは中華系のひととマレー系の人、双方とも働いていました。

マレーシアは発展途上国の分類にはなりますが、クアラルンプールの中心部では都会に感じました。しかし、日本と違い、景観を大切にしている印象を受けました。歩道沿いの木や公園など、自然を取り入れているように感じました。中心部を少し外れると、昔の古い建造物が見えたり、道路が少し整備されていなかったりと発達段階であるのを実感しました。

### 8/15 生理学クイズ国際大会 1 日目

結果としては、予選敗退となりました。生理学の分野に知識の偏りがあったことが一番の問題であったと思います。

## 抱負

今回の生理学クイズ国際大会では、自分の生理学の知識の不足を実感しました。この経験を糧に、今後も医学の勉強に励んでいきたいとおもいます。また、多様性のある社会、世界の中で共存していくことに対してより積極的に意識していきたいと思います。